

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300065		
法人名	特定非営利活動法人かくれんぼ		
事業所名	グループホームかくれんぼ		
所在地	名古屋市北区金城丁4丁目56番地		
自己評価作成日	平成26年 8月22日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2390300065-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の体操や晴れた日には散歩に出掛けて、少しでも身体を動かしていただいております。嚥下体操や頭の体操などやられているのではなく、楽しく積極的に参加していただけるようスタッフ一同工夫しております。気分転換に近くの喫茶店へちょくちょく出かけたり、旬の花を見に行く等、季節を感じて過ごす事も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入れ替わりが2名あり、1ユニット9名の環境が大きく変化した年度となった。新規利用者の獲得の苦労は言うに及ばず、利用者が抜けた環境下で、今までの雰囲気を変えずに支援する事の難しさを痛感している。しかし、その環境下でも、ホームが継続してきた雰囲気維持を工夫し、沈みがちな利用者の気持ちを職員が明るく支え、新規の利用者に対しても、居場所のある第二の我が家となるように、手厚い支援を実践している。
 利用者の発した「かごの鳥」をキーワードに、ホームに閉じこもらない支援を職員間で話し合い、徒歩での外出が無理になって来た利用者に対しても、ドライブに誘い出したり、車いすが使用できるショッピングモールに外出して、外食や買い物を楽しんだり、利用者の笑顔につながる支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者も、障害者も、健常者も、全ての人が同じ人として、均等に当たり前の生活ができるような社会の実現を目指す理念のもと、地域との交流を積極的に行ないながら、事業所の理念の理解を深める努力を行なっている。	全ての人がその人らしく生活できることを目指す法人理念「等生」について、職員研修で理解を深めている。職員からは「自分のケアの目標」との声がかかれ、職員にも浸透していることがうかがわれる。	職員への理念浸透を鑑み、そろそろ、法人理念を踏まえた事業所毎の目標策定や、そこからつながる、職員の個人目標策定の取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のコンビニエンスストアや喫茶店等利用者様が頻繁に利用される施設とは密に交流しており、利用者様を覚えてもらったり、認知症の事を理解してもらっている。	近隣の清掃活動には利用者が職員とともに参加し、交流を深めている。また、法人全体で地域交流を考え、各事業所が月1回、野菜やパンを販売する「青空市」を開催し、地域に溶け込むように取り組んでいる。毎回盛況の「青空市」は利用者にとっても楽しい行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会が主催する近隣の神社の清掃に利用者様と共に参加して、地域交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2ヶ月に1度程度)運営推進会議を開催して近況を報告するとともに、適切なアドバイスを仰いでいる。また学区の区政協力委員長や民生委員の方と連携をとり地域の行事等との連携をはかっている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と、近隣地域の同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と3事業所合同で会議を開催している。年6回の開催があり、参加者からは、見学会の依頼や、食事の内容に意見が出たりと、活発な話し合いの場となっている。	誰のための会議であるかを考えると、利用者参加の検討が望まれる。利用者から直接発せられる意見聴取の場としても活用が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要があれば、電話、FAX、メール等で連絡を取り各種相談や協力体制の構築をはかっている。運営推進委員に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、行政の情報を提供して頂いている。	生活保護受給者の受け入れもあることから、行政担当部署とは定期的に連絡をとっている。運営推進会議には毎回地域包括支援センター職員が参加しており、事業所の現状を把握し、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを原則としているが、夜間のベッド柵の使用や車移送時の車椅子のベルト着用など安全上必要な時は、家族様の同意の上行なっている	安全確保のためのやむを得ない措置については、職員間で、個別にその方法について話し合い、家族とも話し合う機会を設けている。転落防止と安全確保を目的とする4点のベッド柵の事例があるが、解除する方向性を、職員全員で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや気がつかずに虐待していることはないが、管理者や現場の責任者は注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やセミナー等に可能な限り参加し学び、又その情報を事業所内にて報告し活用に向けて前向きに検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約時には文面において説明を行い、説明後は署名捺印をもらい文面で残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から施設面会時意見交換に努めるだけではなく、年に数回、家族を招いた会を開催して、家族様と話し合う機会を設けている。今年からは不定期ではあるが家族様にアンケートを実施して、サービスに対する意見を求めている。	家族の来訪時や家族会を活用し、家族意見の聞き取りを行うと共に、日常的に家族とのコミュニケーションを深め、満足度の検証を行っている。不定期の家族アンケート実施は、具体的な意見の聞き取りに功を奏している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の申し送りで管理者は職員と話をする機会を持ち、現場の意見や提案を検討・取り入れている。また、月1回のリーダー会議で職員の意見提案等を報告、運営に反映させている。	月2回の勉強会やカンファレンスを兼ねたミーティングを行い、意見の聞き取りを行っている。職員からは「出した提案にはすぐ対応してくれる」と管理者に信頼を寄せる声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	偏りや無理の無い勤務形態を整備し、能力に応じた給与水準を設けている。また、積極的に外部の研修に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回研修会を開催して知識・技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナー、懇親会等は可能な限り出席し、自己を高めるネットワーク作りを推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に十分な情報収集に努め、利用開始からしばらくは、担当職員が重点的に係わり、利用者間の橋渡し役を勤めたり、雰囲気になれる手助けを行なう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、グループホームの特徴を説明した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に家族や担当ケアマネ、ケースワーカーから十分なアセスメントを行い、適切なサービスの提供ができるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の経験・特技・特性を活かして、手伝ってもらえることは生活リハビリの一環としてやっていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃から連絡を蜜にとり、家族と一緒に利用者に参加できる行事を企画したり、家族様が自由に入出ししやすい環境となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望されれば、今まで利用されていた美容院やお店への送迎を行ったり、以前の環境とこれからの環境が融合した心地よい生活環境の構築を目指している。	古い友人から定期的にはがきの届く利用者や、通い慣れた美容室に出かける利用者がおられる。書道の師範をしていた利用者は、現在も書をしたためることがあり、趣味の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮しながら、スタッフが利用者間の関係作りの手助けを行なっている。また、スタッフができるだけコミュニケーションをとり孤立感を感じさせないように接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様によっては契約終了後も家族様に定期的に連絡をとり様子をうかがったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や趣味、外出の希望要望にできるだけ配慮られるよう、外食・外出・買い物企画をしている。	職員は利用者に寄り添う気持ちで、家族の話も参考に、問いかけを工夫して、思いを引き出すように努めている。把握した利用者の思いは申し送り時や連絡ノートを利用して職員間で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントや本人の様子を観察しながら、生活歴の情報収集に努め、できるだけ本人の以前の生活空間が部分的でも再現・継続できるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用時の状況を定期的にモニタリングしてミーティング等により情報の共有を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	10日に1回程度のミーティング、月1回のモニタリング等を基に、家族様の要望を踏まえたうえで介護計画の作成を行っている。	利用者ごとに担当職員を決めて利用者の状態を把握し、毎月モニタリングを行なっている。カンファレンスで話し合い、家族の意見も取り入れながら定期的に見直しを行っている。	利用者・家族意見を直接聴き取る、関係者が一堂に会した、サービス担当者会議等の開催が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に、利用者個々の日々の個別記録を行い、介護計画見直しの情報収集を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が対応できるかぎり、個々の利用者様のニーズに応えられるよう、買い物や外出等の機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の交番や利用者様のよく利用するお店や地域住民との情報交換を常日頃から行い、何かあった時に協力が得られやすい環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とできるだけ連携をとりながら、急変した場合は速やかに受診往診ができる体制作りをおこなっている。	ホーム提携医の往診を支援している。内科のほか眼科の往診もある。歯科については、職員として配置する歯科衛生士が日常的に口腔内をチェックし、必要に応じて通院する連携がある。併設事業所の看護師配置も、利用者や職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師により健康管理や薬の管理を行なうとともに、介護スタッフへ医療面での適切なアドバイス行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の居宅介護支援事業所や小規模多機能のケアマネージャーに協力してもらいながら、近隣の主たる病院のケースワーカーと普段より情報交換を行い、入院中の情報交換がスムーズに行なえる体制作りの構築をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意見ならびに家族の意向を最大限に尊重し、ターミナルケアの希望にできるだけ沿えるように対応していきたい。	家族と話し合い、その意向を反映して看取りを行った事例がある。提携医の指導と協力のもと家族も付き添いをおこない、協力体制を築くことができた。管理者は、ホームでの支援の限界の見極めも含め、職員の意識向上を図れた、経験値になったと考え、今後の支援につなげて行く方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急要請等の目安を介護職員に指示しており、救急車を呼ぶ手順の把握はできている。また緊急時のマニュアルを作成したり、研修等に参加して知識の向上をはかっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応できるよう避難消防計画を作成し、定期的に消防・避難訓練を実施している。	夜間想定を含めた年2回の避難訓練を実施している。消防署から、避難は無理に階下に降りるのではなくそのフロアの火元から離れた所へ避難するよう助言を受け、避難経路を考えた、実践的な訓練を行っている。災害に備え、飲食料の備蓄も計画的に進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個人の性格を踏まえ、適切な言葉使いや介助を行なうよう、心掛けている。	全ての決定権は利用者であり、支援にあたっては自分の身に置き換え、何が適切なかを考えて判断するよう心がけている。利用者の個性を尊重し、その人その人に合わせた支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者ごとに担当職員を決め、利用者様の希望を聞いたり、コミュニケーションがとりにくい場合は十分な観察をしたり、本人の思いを汲み取る努力を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不穏時や落ち着きの無い時は、話を聞いたり外出したり、個別に対応する時間を十分に確保し、個別ケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば美容院に連れていったり、自分で化粧が出来る環境整備を行なったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お皿拭きや食器の片付け、おかずの盛り付けを手伝ってもらったり、おかしやおかず作りをスタッフと一緒にこなったりしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で専任職員が調理を行っている。見た目からも食事が楽しめるように、使用する食器や盛り付けを工夫し、席順も利用者同士の相性に配慮して楽しい時間の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を常に記録して栄養の摂取状態の把握に努めている。また利用者個々の咀嚼・嚥下機能にあわせて、刻み・ミキサー食の提供をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる利用者様には声かけ誘導により歯磨きを促し、希望される利用者様には外部の歯科より往診をしてもらったりしている。また職員に歯科衛生士を配属しており定期的(週3回程度)口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行ない、排泄の失敗を減らし、できるだけオムツ・リハビリパンツに頼らないケアに努めている。	利用者ごとの状態に合わせ、見守りや声かけ、場合によっては二人介助で、トイレ排泄を基本に支援している。申し送り時や職員ミーティングで個別に支援方法を話し合い、適切に支援できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握し、便秘気味の人には水分補給や食べ物の工夫により排便を促している。それでも改善されない場合は、医師に相談して薬の使用を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には月～土で週3回の入浴と決めているが、本人の希望に添い、随時対応している。	日曜を除く毎日の入浴を提供し、個人毎には、原則週3回午前中に入浴時間を設定している。入浴時は背中をハンドマッサージしたり、ゆっくり会話をを楽しむようなコミュニケーションを心がけ、心地よい時間が過ごせるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々習慣に合わせて、ある程度日中は自由に過ごしてもらっている。就寝時間も個々のリズムに合うように就寝の介助をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己管理のできない利用者様に対して、服薬管理を行なっている。また薬の情報を共有できるように薬情報を管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句・生け花等、昔行っていた趣味を施設でもやっていただけるような場を提供している。また外出する機会を設け気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな利用者様には外出機会を多く設け、定期的に皆で外食買い物等の機会を設けている。	外出を好む利用者は、日常的に散歩や買い物に出かけている。利用者の高齢化、重度化に伴い、それも難しくなっている状況が否めないが、移動手段を自動車に置き換え、ドライブを中心に、合わせてショッピングモールへの買い物や外食に出かけるなどを工夫して、外出機会が持てるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方は、事務所で金銭管理をし、必要に応じてその都度出し入れを行なっている。家族様には定期的に収支の報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、手紙の投函、用具の準備を行なっている。また外部への電話の取次ぎを希望必要時には行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、BGMIに音楽を流したりリラックスできるような空間作りを努めている。	明るく開放的なリビングには、あちらこちらに椅子を配置し、ドライヤーをかけたり歯磨きをしたり、気の合う者同士がくつろいだりと、多目的に活用している。事業所全体が清潔に保たれており、潤いのある生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを用意して、会話を楽しんだり、テレビ等くつろげる共用空間作りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に部屋の模様替えをしていただいたり、好きな家具を置いてもらったり居心地の良い部屋に変えていただいている。	居室は利用者の個性があふれており、茶道具を持ち込んでいる利用者もおられる。その人の生活歴がうかがえる趣味の道具や好みの装飾品、仏壇や冷蔵庫が持ち込まれている居室もあり、その人らしさを大切に反映した部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリー設計になっており、自立した生活支援の為、適所に手すりの設置をしている。		